

2022

9

September

ツナグ
働き方
研究所

Spot-Work Market Data-Report

スポットワーク マーケット データレポート

2022年
7月度版

マーケット

データレポート



スポットワークマーケットを定点観測する意義

○マーケットの定義

スポットワークとは、単発、短時間、短期間で働く「継続した雇用関係」のない働き方を指します。その中でも、雇用契約を結ばない“ギグワーク”と、単期雇用契約を結ぶ“単発バイト”の2種類に分類されます。こうしたワークスタイルで働く個人、活用する企業の市場がスポットワークマーケットです。

○マーケットの現状

スポットワーカーは、働き方改革法案の施行、コロナ禍を契機に急増しています。

個人) 働き方改革による残業規制、コロナ禍による休業や勤務時間減少は、追加で収入を得たいという働き手を増加させました。

企業) 収益確保、生産性向上の観点から、ムダやムラのない=必要な時に必要な数だけ人材を配置する最適化思考が高まりました。

技術) テクノロジーの進化により、タイムリーかつオンデマンドなマッチを提供するスポットワーク求人事業者が増えました。

「単発、短時間、短期間で働く」というワークスタイルは、今後さらに広がりを見せていくことが予見されます。

○定点観測する意義

総務省統計局の「労働力調査」では、2018年からILO基準の「未活用労働指標」を導入しました。例えば、その中にある「追加就労希望就業者」は「広義の失業者」とも言われる労働者です。現状の就労に追加して「単発、短時間、短期間で働く」ことは、労働者の収入安定、すなわち広義の失業率の改善につながります。一方、マクロ的には、潜在的な労働力活用は国力の向上に寄与することになります。こうした観点からも、スポットワークマーケットを定点観測し、市場規模の動向、有益なトピック、内在する課題などを可視化することには、おおいに社会的意義がある。我々、ツナグ働き方研究所は、そう考えます。

- 03 概況
- 05 就業構造/未活用労働指標 LU1/LU2/LU3/LU4
- 07 ※追加就労希望就業者推移
- 08 ※広義の失業者/失業率
- 10 スポットワーク求人倍率
- 12 ※職種別・地域別
- 14 スポットワーク新規求人件数推移
- 16 スポットワーク平均賃金
- 18 ※スポットワーク・アルバイト賃金の格差比較
- 19 ※スポットワーク・アルバイト賃金主要職種比較



スポットワーク 求人倍率

前月から+0.61ポイント、
前年同月から+0.40ポイント。

2.18 ↑
倍



地域別 スポットワーク 求人倍率

地域別でみると
東海が3.57倍で、
群を抜いて高い

3.57 ↓
倍
(東海エリア)



職種別 スポットワーク 求人倍率

コンビニスタッフが、
7.88倍で最も高い
(前年同月比
+2.41ポイント)

7.88 ↑
倍
(コンビニスタッフ)



新規 ワーク数

前月比+48.3%、
前年比+83.1%
と新規ワーク数
は大きく伸長

8.6 ↑
万件



追加就労希望就業者

※2022年4-6月

1-3月比23万人減、
前年比40万人減。

194
万人 ↓



広義の失業率※2022年4-6月

労働力人口に占める失業者と
追加就労希望就業者の割合。
対前年で0.9ポイント改善。

5.8 ↓
%



スポットワーク 平均賃金

前月から+13円、
前年同月から+72円。

1,158 ↑
円



アルバイト賃金 との格差

三大都市圏のアルバイト平均賃金は1,126円、
スポットワークは1,158円。

+32 円



職種最高賃金 (倉庫内軽作業)

スポットワーク主要職種
で、最も賃金が高いのは、
倉庫内・軽作業

1,235 ↑
円

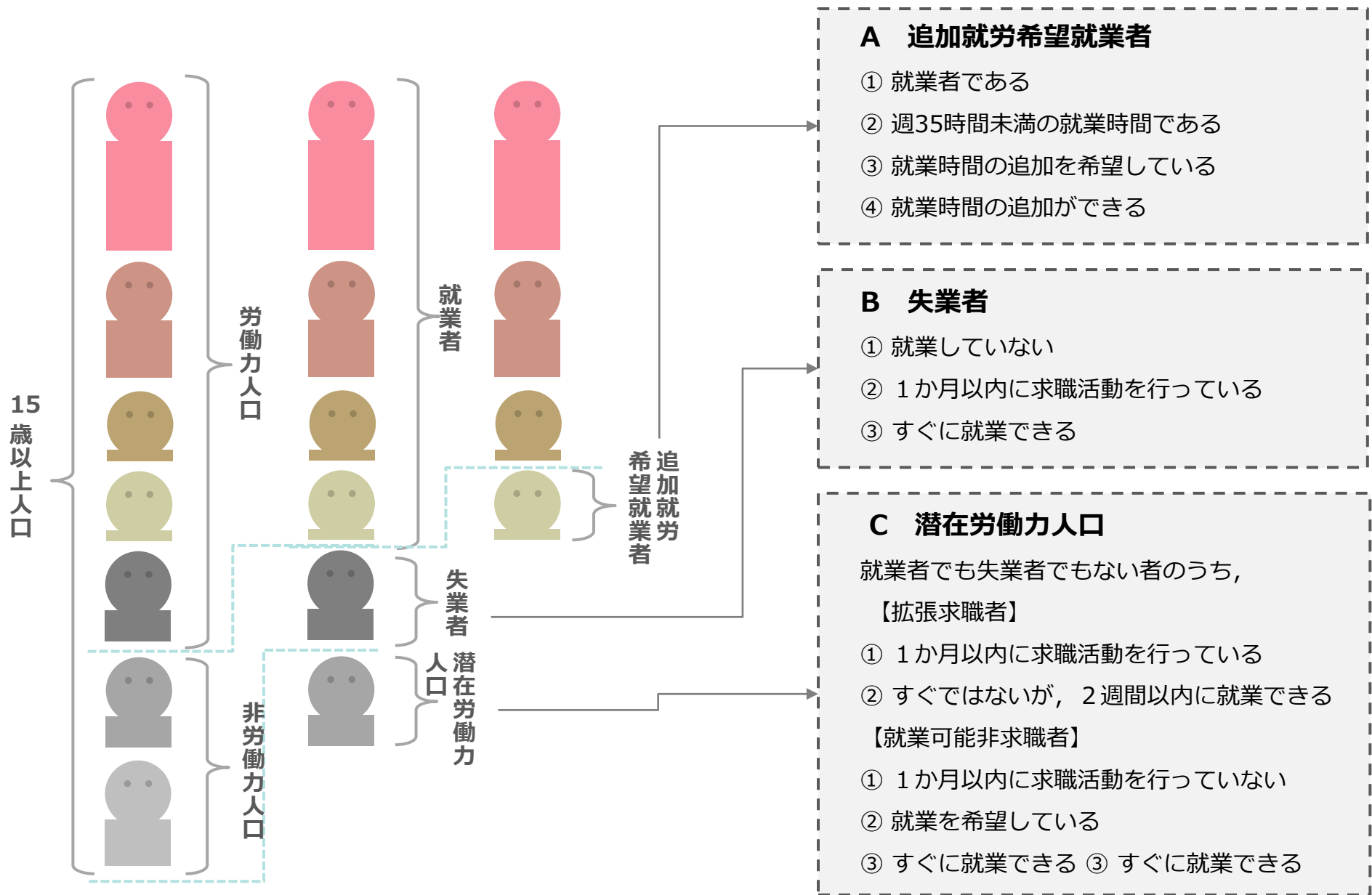


職種賃金格差 (倉庫内軽作業)

アルバイト賃金と比較して、
最も賃金格差が大きいのは倉庫内・軽作業

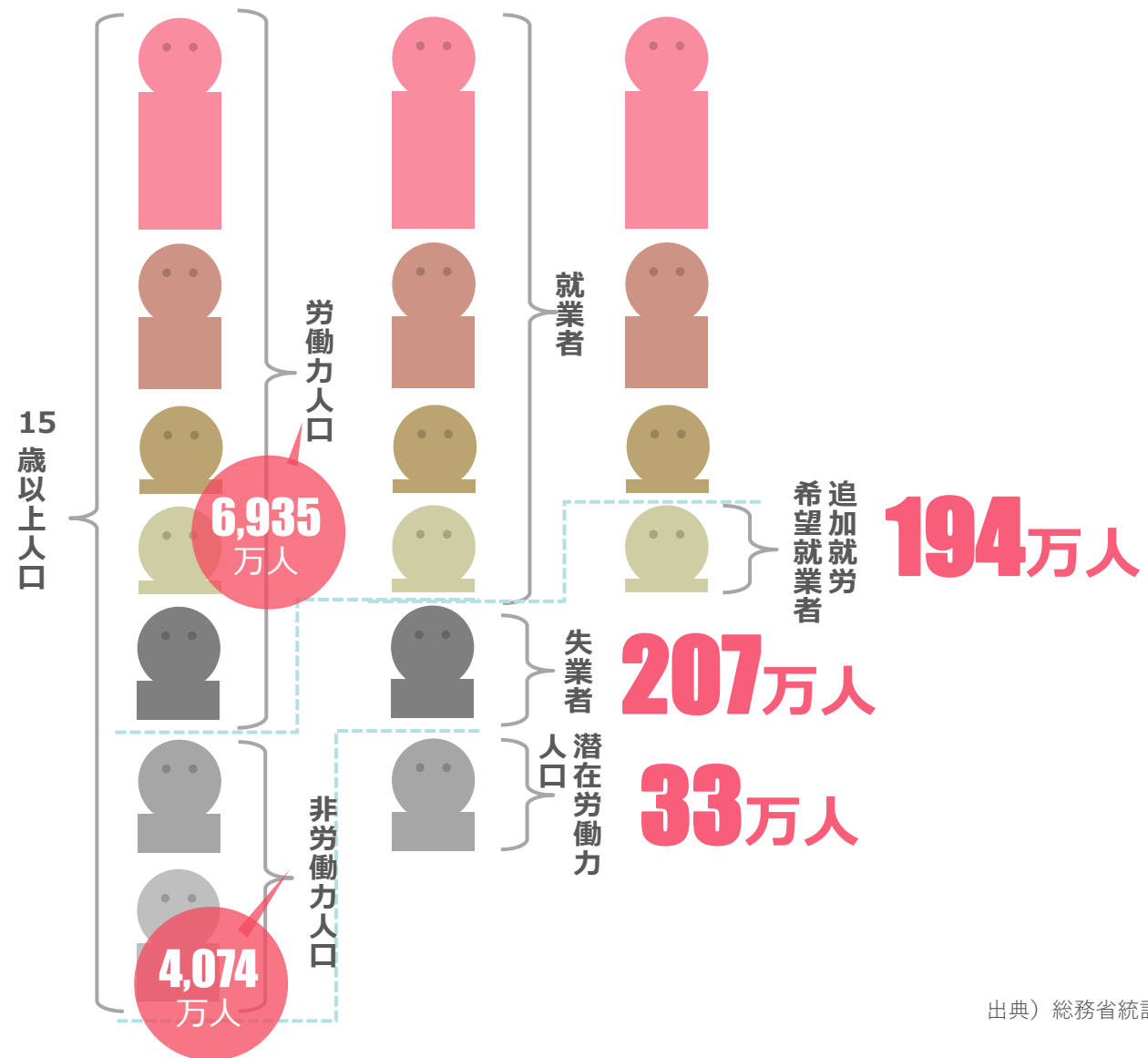
+96 円

スポットワーク労働市場



未活用労働力/2022年4-6月

- 2022年4-6月の失業者は207万人、追加就労希望就業者194万人。
- 失業者は1-3月202万人から5万人増、追加就労希望就業者は1-3月217万人から23万人減。



LU: Labour Underutilization (レイバー・アンダーユティリゼーション)

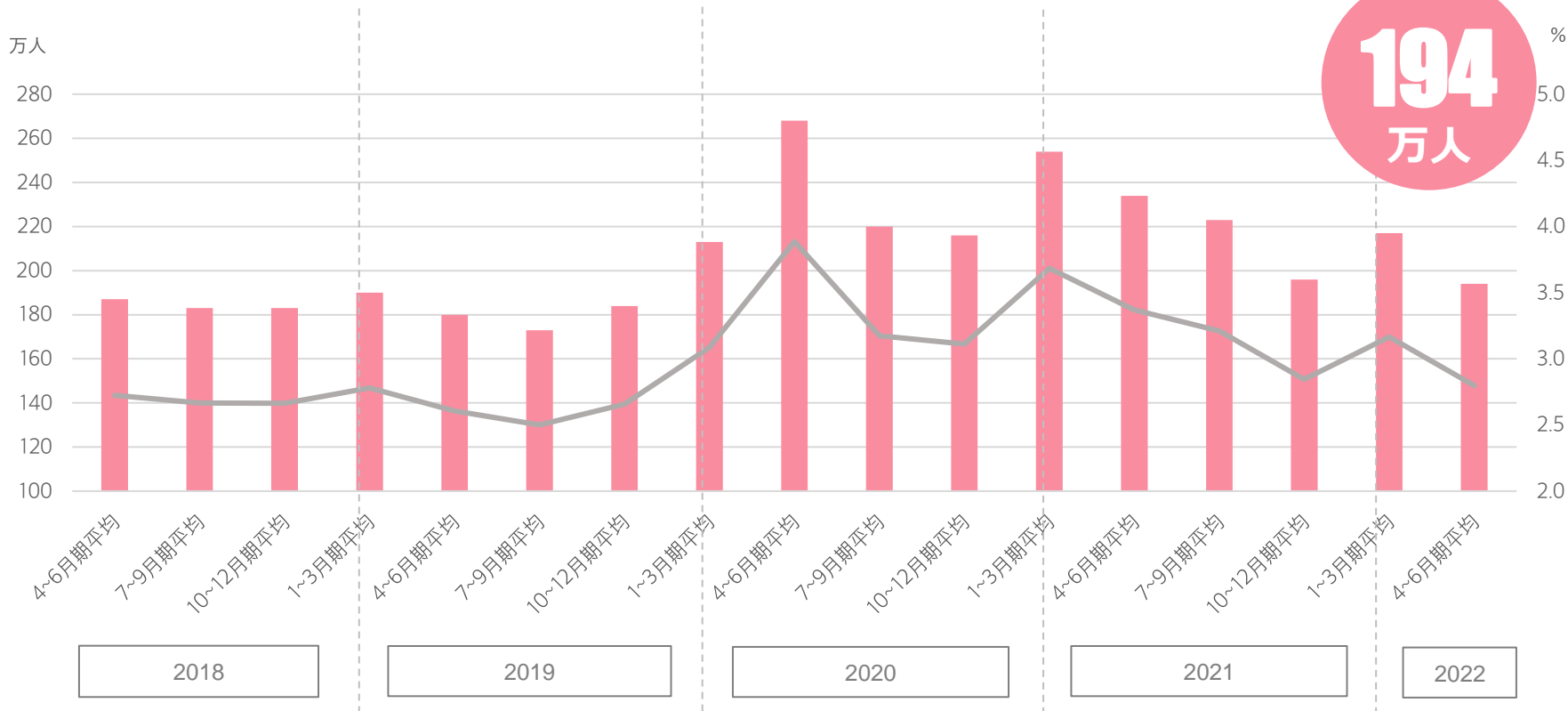
LU1	$\frac{\text{失業者}}{\text{労働力人口}}$	3.0%
LU2	$\frac{\text{失業者} + \text{追加就労希望就業者}}{\text{労働力人口}}$	5.8%
LU3	$\frac{\text{失業者} + \text{潜在労働力人口}}{\text{労働力人口} + \text{潜在労働力人口}}$	3.4%
LU4	$\frac{\text{失業者} + \text{追加就労希望就業者} + \text{潜在労働力人口}}{\text{労働力人口} + \text{潜在労働力人口}}$	6.2%

出典) 総務省統計局「労働力調査(詳細集計)」2022年(令和4年)4~6月期平均を加工
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/tsuki/>

追加就労希望就業者推移（季節調整値） / 2018年4月～2022年6月

再掲

- 2021年1-3月期から10-12月期まで減少、2022年1-3月期で増加したものの、再び減少（2022年1-3月217万人）。
- 緊急事態宣言下にあった前年同時期（2021年4-6月期）の234万人/3.4%からは大きく改善。



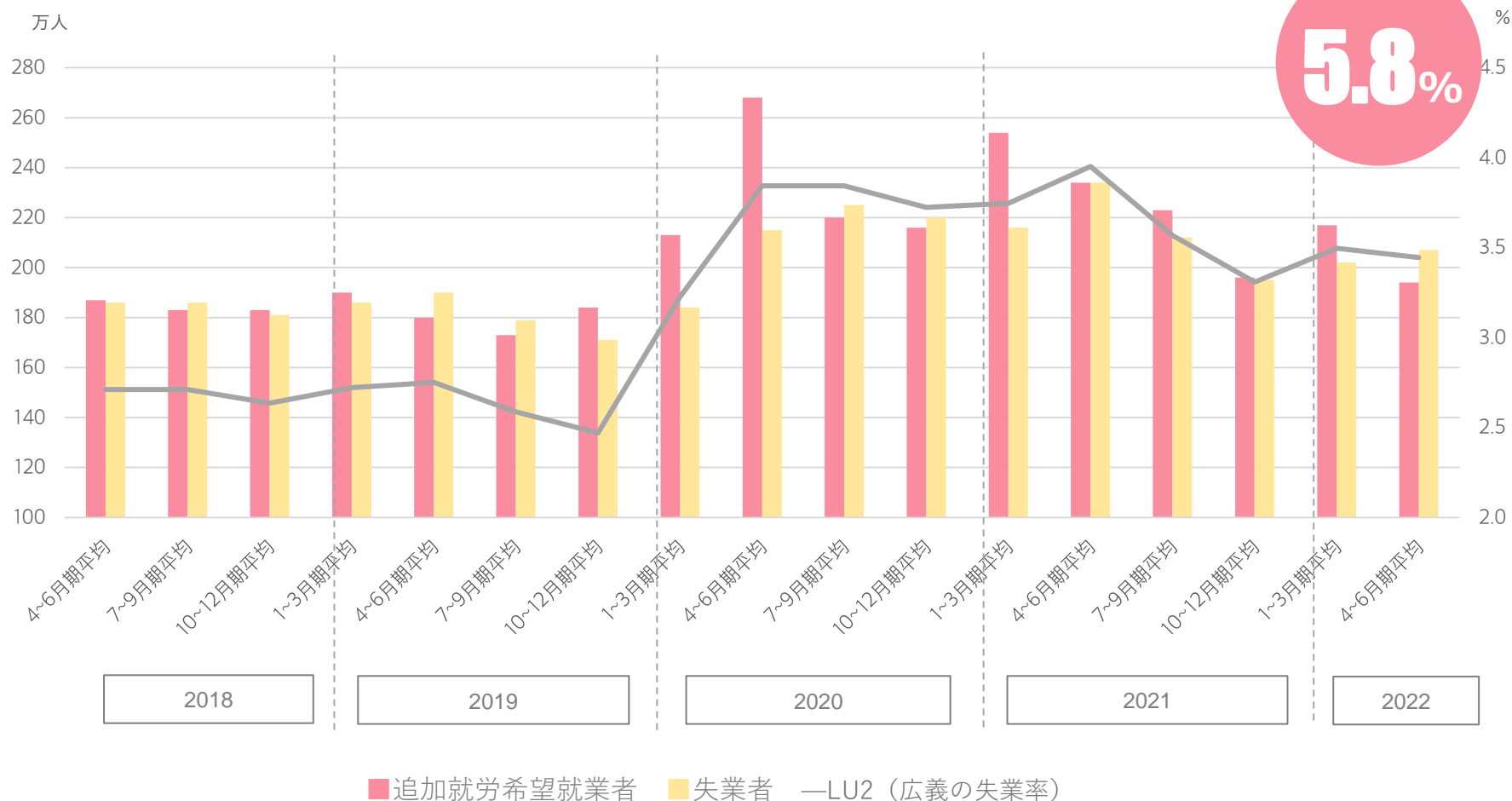
194
万人

	2018年			2019年			2020年			2021年			2022年				
	4~6月期平均	7~9月期平均	10~12月期平均	1~3月期平均	4~6月期平均	7~9月期平均	10~12月期平均	1~3月期平均	4~6月期平均	7~9月期平均	10~12月期平均	1~3月期平均	4~6月期平均				
追加就労希望就業者	187	183	183	190	180	173	184	213	268	220	216	254	234	223	196	217	194
追加就労希望就業者率	2.7	2.7	2.7	2.8	2.6	2.5	2.7	3.1	3.9	3.2	3.1	3.7	3.4	3.2	2.8	3.2	2.8

出典）総務省統計局「労働力調査（詳細集計）」2022年（令和4年）4~6月期平均を加工
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/tsuki/>

参考) 広義の失業者/失業率 (季節調整値) /2018年4月~2022年6月

- 失業者と追加就労希望就業者を足した「広義の失業者」は401万人。LU2にあたる「広義の失業率」は5.8%。
- 1-3月の419万人から18万人減。内訳は失業者は5万人増、追加就労希望就業者は23万人減。
- 追加就労希望就業者数が失業者数を下回るのは、2020年の10-12月以来となる。

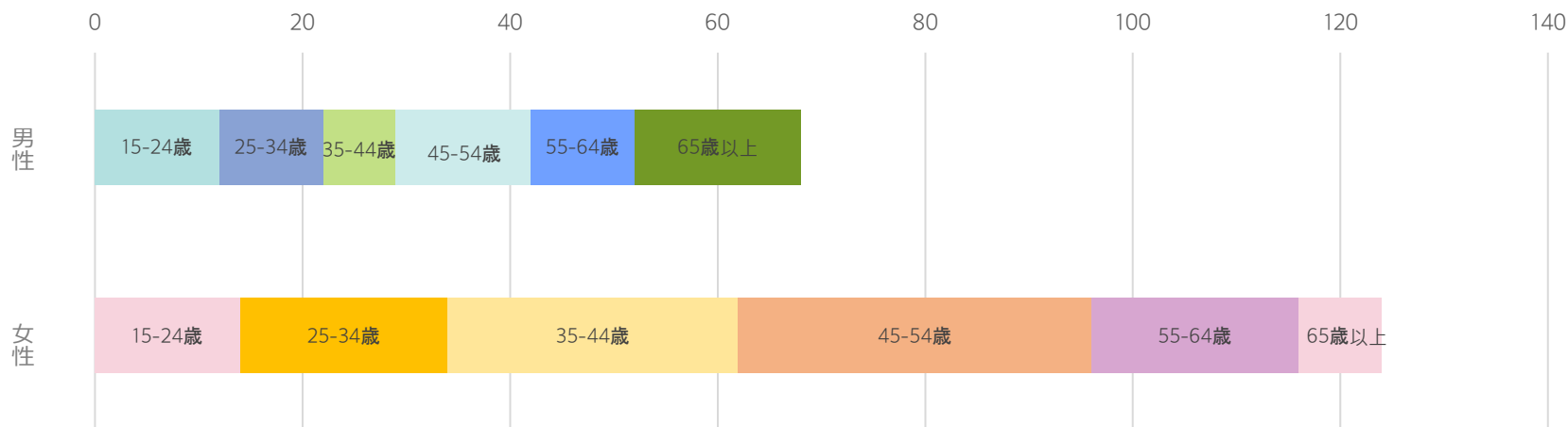


出典) 総務省統計局「労働力調査(詳細集計)」2022年(令和4年)4~6月期平均を加工
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/tsuki/>

追加就労希望就業者 男女別×年齢階級別（季節調整値） /2022年4-6月



- 男女別では、男性69万人/女性124万人と、女性が全体の64%を占める。ボリュームゾーンは45-54歳の47万人。
- 対前年でみると全体で-40万人で、男女ともに20万人超えの減少。25-34歳の女性だけ増加で+4万人。



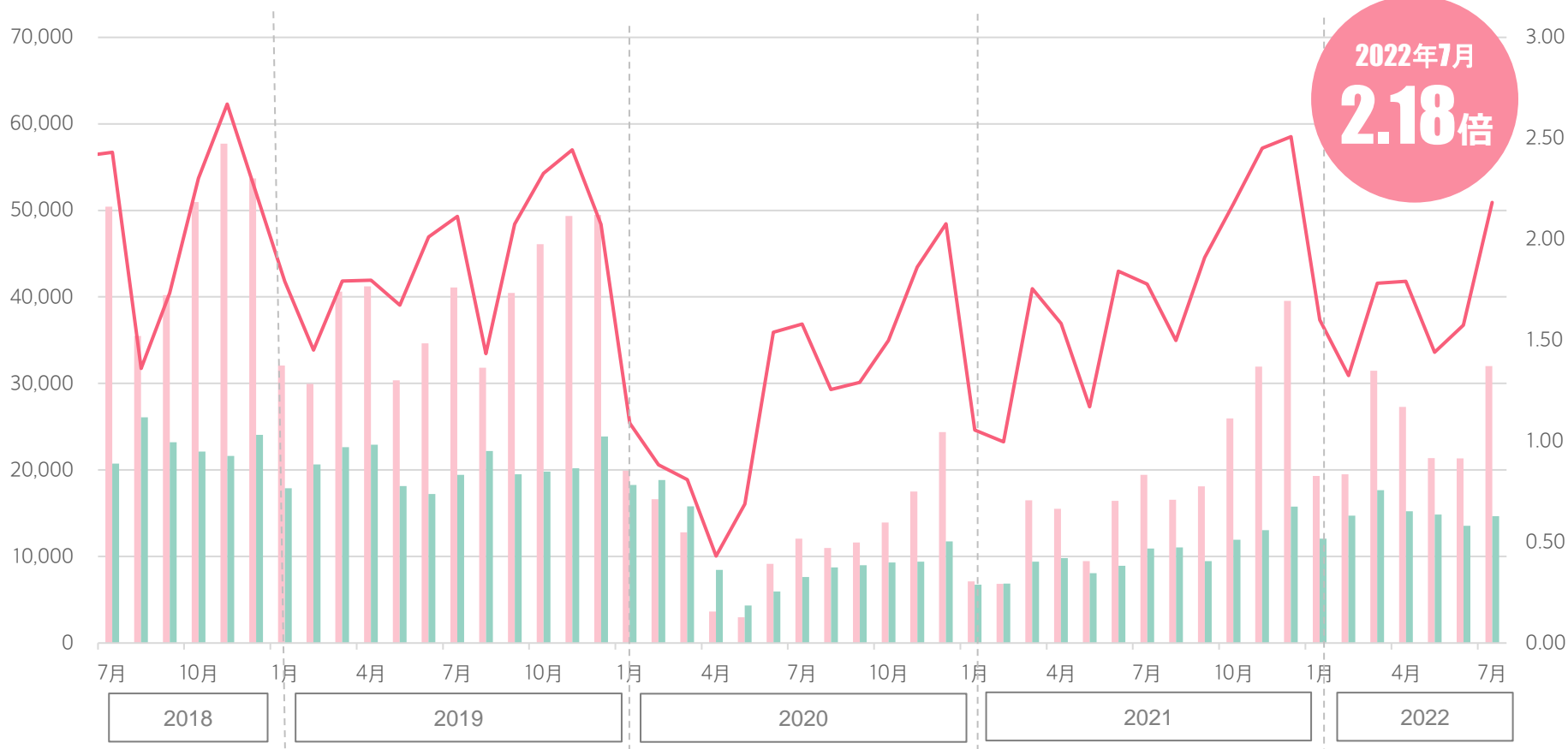
	総計	15～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	55～64歳
男女計	194	26	30	36	47	30	24
男性	69	12	10	7	13	10	16
女性	124	14	20	28	34	20	8
前年同月比							
男女計	-40	-8	-2	-7	-9	-9	-7
男性	-20	-3	-6	-5	-3	-4	-1
女性	-21	-5	4	-3	-6	-5	-6

出典) 総務省統計局「労働力調査(詳細集計)」2022年(令和4年)4～6月期平均を加工
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/tsuki/>

スポットワーク求人倍率

スポットワーク求人倍率の推移

- 2022年7月度のスポットワーク求人倍率は2.18倍。前月から+0.61ポイント、前年から+0.40ポイント。
- 求人倍率が2021年12月以来、7か月ぶりに2倍を超える。7月はお中元等の影響もあり求人数が前月より+50%の32,018件。



	当月		前月比	前年同月比	前月		前年同月
— 求人倍率	2.18	倍	0.61	0.40	1.57	倍	1.78 倍
■ 求人数	32,018	件	50.0%	64.8%	21,350	件	19,431 件
■ 求職者数	14,671	人	8.2%	34.3%	13,559	人	10,927 人

出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」2018年7月～2022年7月データを加工
 ■ 求人数：ショットワークスにおける当月のワーク出稿数 ■ 求職者数：当月登録UU数+前月以前登録者の応募UU数

参考) 職種別スポットワーク求人倍率

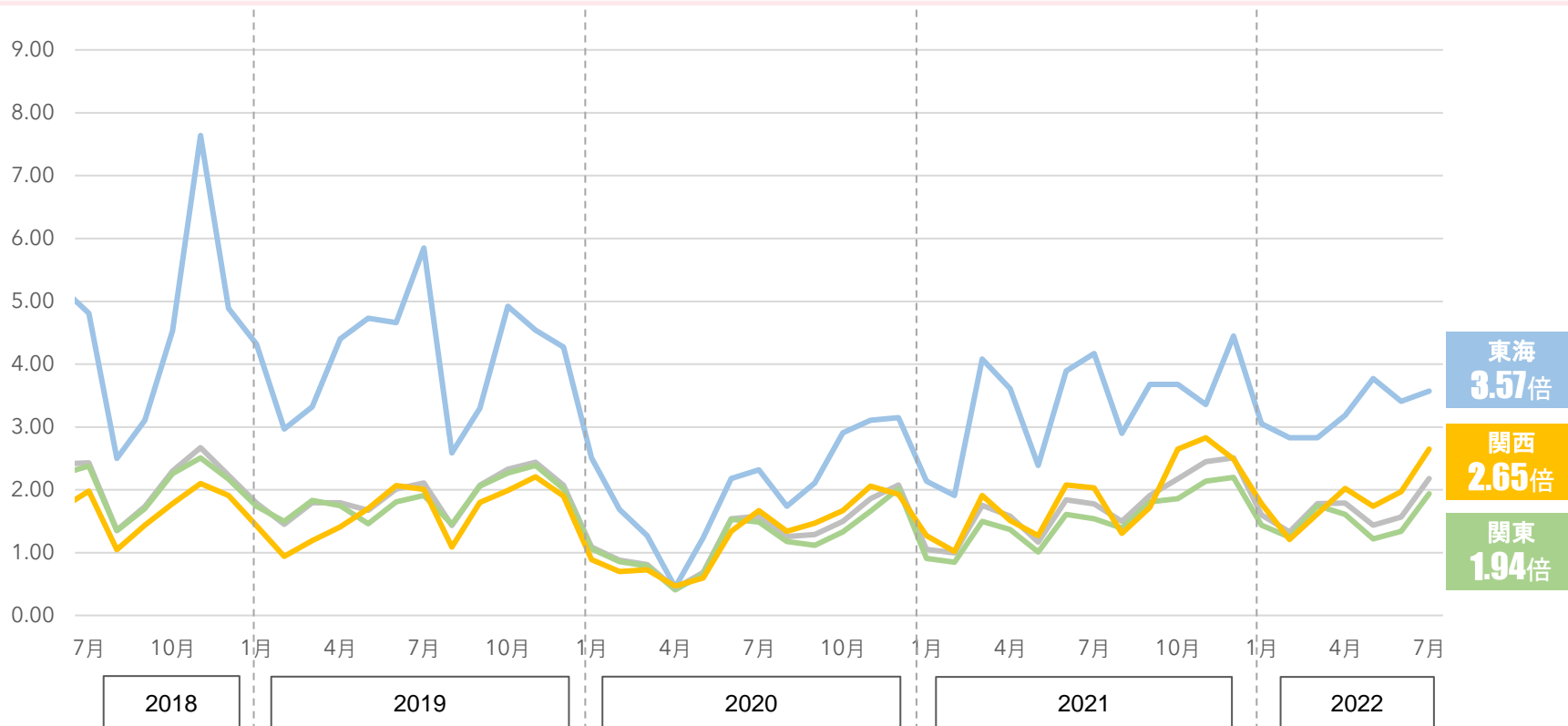
職種名	2018	2019	2020	2021	2022	前年比
	7月	7月	7月	7月	7月	
イベントスタッフ	1.70	1.33	1.11	0.91	1.29	0.38
飲食・フード	2.28	1.96	6.95	2.20	1.61	-0.59
倉庫内・軽作業	1.79	1.61	1.50	1.71	2.17	0.46
組立工	2.05	2.50	3.13	2.34	3.26	0.92
コンビニスタッフ	5.14	5.78	4.79	5.47	7.88	2.41
キャンペーン・PR系	12.05	6.72	6.87	10.70	7.24	-3.46
運送・ドライバー系	2.92	2.86	3.16	3.32	4.37	1.05

職種名	2021	2021	2021	2021	2021	2021	2021	2022	2022	2022	2022	2022	2022	前月比
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
イベントスタッフ	0.91	0.75	1.05	1.30	1.19	1.21	1.06	0.63	0.83	0.84	0.79	1.01	1.29	0.28
飲食・フード	2.20	2.74	1.23	1.45	2.85	3.82	2.17	1.50	1.78	1.92	1.27	1.55	1.61	0.06
倉庫内・軽作業	1.71	1.35	1.78	2.29	2.56	2.46	1.57	1.26	1.73	1.90	1.43	1.51	2.17	0.66
組立工	2.34	2.10	2.62	2.64	2.84	2.26	1.73	1.44	2.01	2.67	2.07	1.56	3.26	1.70
コンビニスタッフ	5.47	4.90	4.61	4.90	5.35	6.24	6.04	4.74	6.15	7.59	6.85	6.41	7.88	1.47
キャンペーン・PR系	10.70	9.69	6.80	15.58	8.69	9.41	8.35	5.26	6.65	5.99	8.91	5.38	7.24	1.86
運送・ドライバー系	3.32	3.99	4.01	5.20	6.85	6.86	3.60	3.76	4.89	3.97	2.93	2.63	4.37	1.74

出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」2018年7月～2022年7月データを加工

■ 求人数: ショットワークスにおける当月のワーク出稿数 ■ 求職者数: 当月登録UU数 + 前月以前登録者の応募UU数

参考) 地域別 スポットワーク求人倍率推移

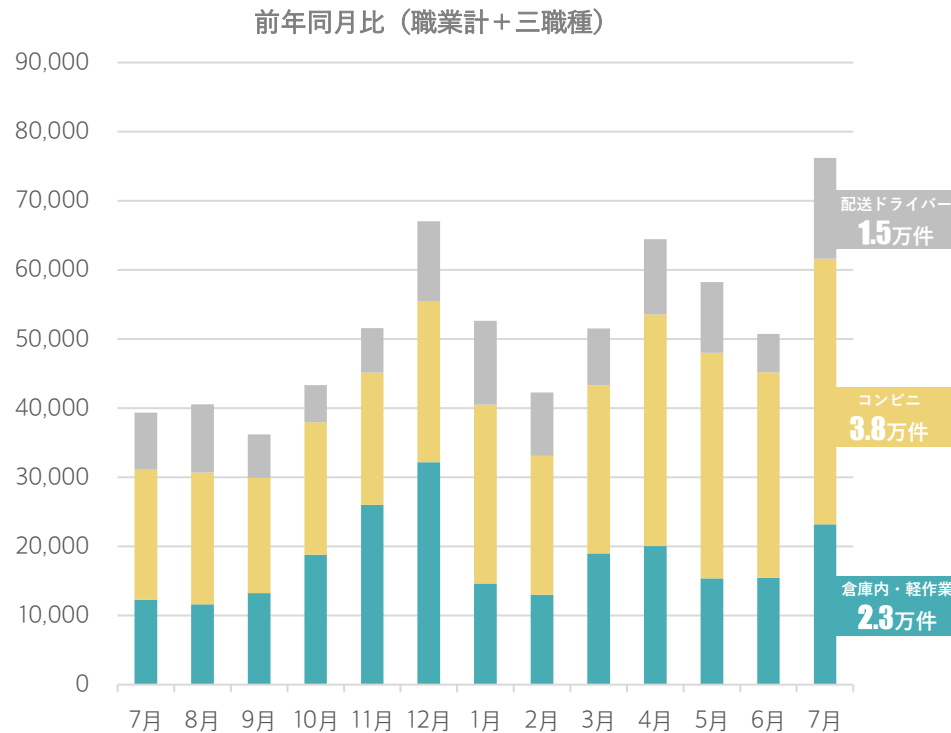
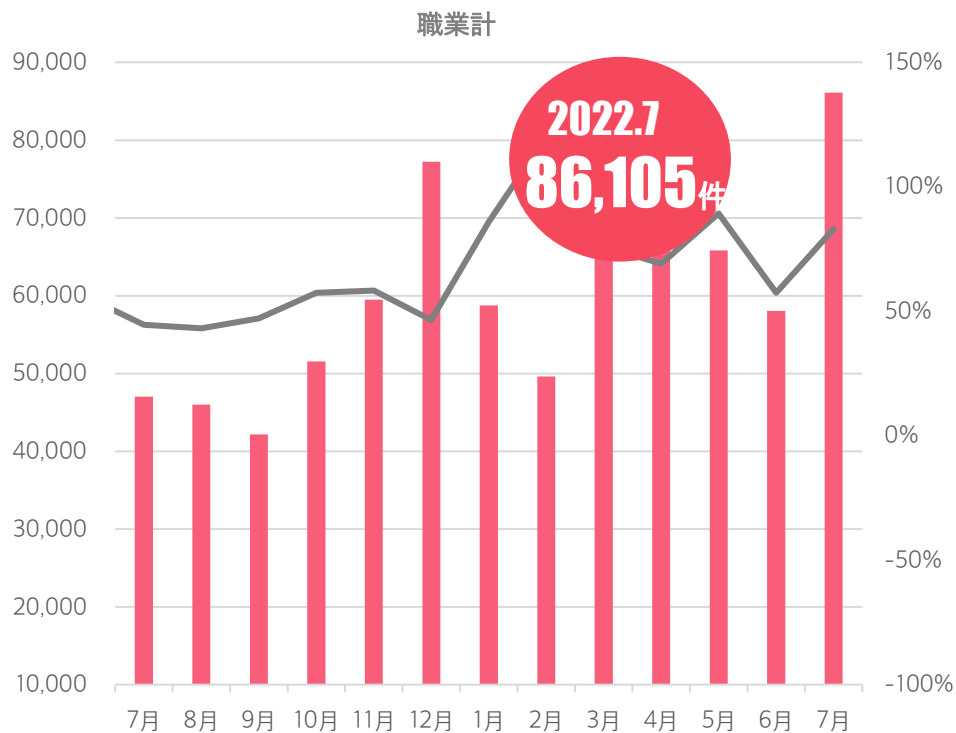


求人倍率	■全国 ■関東 ■東海 ■関西			
	当月	2.18	1.94	3.57
前月比	↗	↗	↗	↗
前年同月比	↗	↗	↘	↗
前月	1.57	1.34	3.41	1.97
前年同月	1.78	1.54	4.17	2.03

出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」2018年7月～2022年7月データを加工
 ■ 求人数: ショットワークスにおける当月のワーク出稿数 ■ 求職者数: 当月登録UU数 + 前月以前登録者の応募UU数

職種別新規ワーク数推移

■ 景気の先行指標とも言われる新規ワーク数は86,105件（前年同月比+83.1%）。

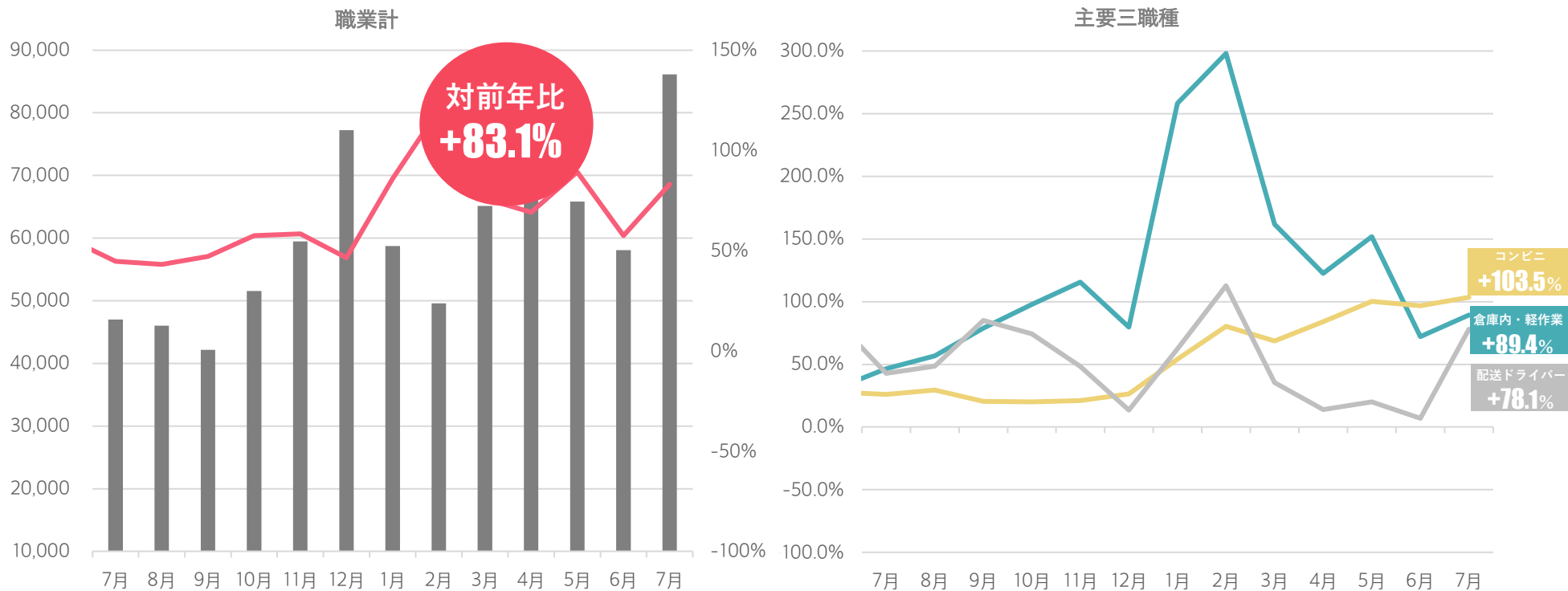


	当月	構成比	前月比	前月	前年同月比	前年同月
■ 職業計	86,105 件	100.0%	48.3%	58,062 件	83.1%	47,014 件
■ イベントスタッフ	2,751 件	3.2%	46.4%	1,879 件	58.5%	1,736 件
■ 飲食・フード	446 件	0.5%	9.0%	409 件	49.2%	299 件
■ 倉庫内・軽作業	23,200 件	26.9%	50.0%	15,468 件	89.4%	12,249 件
■ 組立工	1,616 件	1.9%	67.3%	966 件	42.0%	1,138 件
■ コンビニスタッフ	38,400 件	44.6%	29.3%	29,702 件	103.5%	18,871 件
■ キャンペーン・PR系	795 件	0.9%	10.4%	720 件	-16.9%	957 件
■ 運送・ドライバー系	14,606 件	17.0%	161.9%	5,578 件	78.1%	8,203 件

出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」2021年7月～2022年7月データを加工

職種別新規ワーク数伸び率推移

- 新規ワーク数は対前月で+48.3%、対前年比で+83.1%。
- 主要職種の伸び率は3業種全て大幅に上昇しているが、特にコンビニスタッフが対前年+103.5%と順調に伸長。



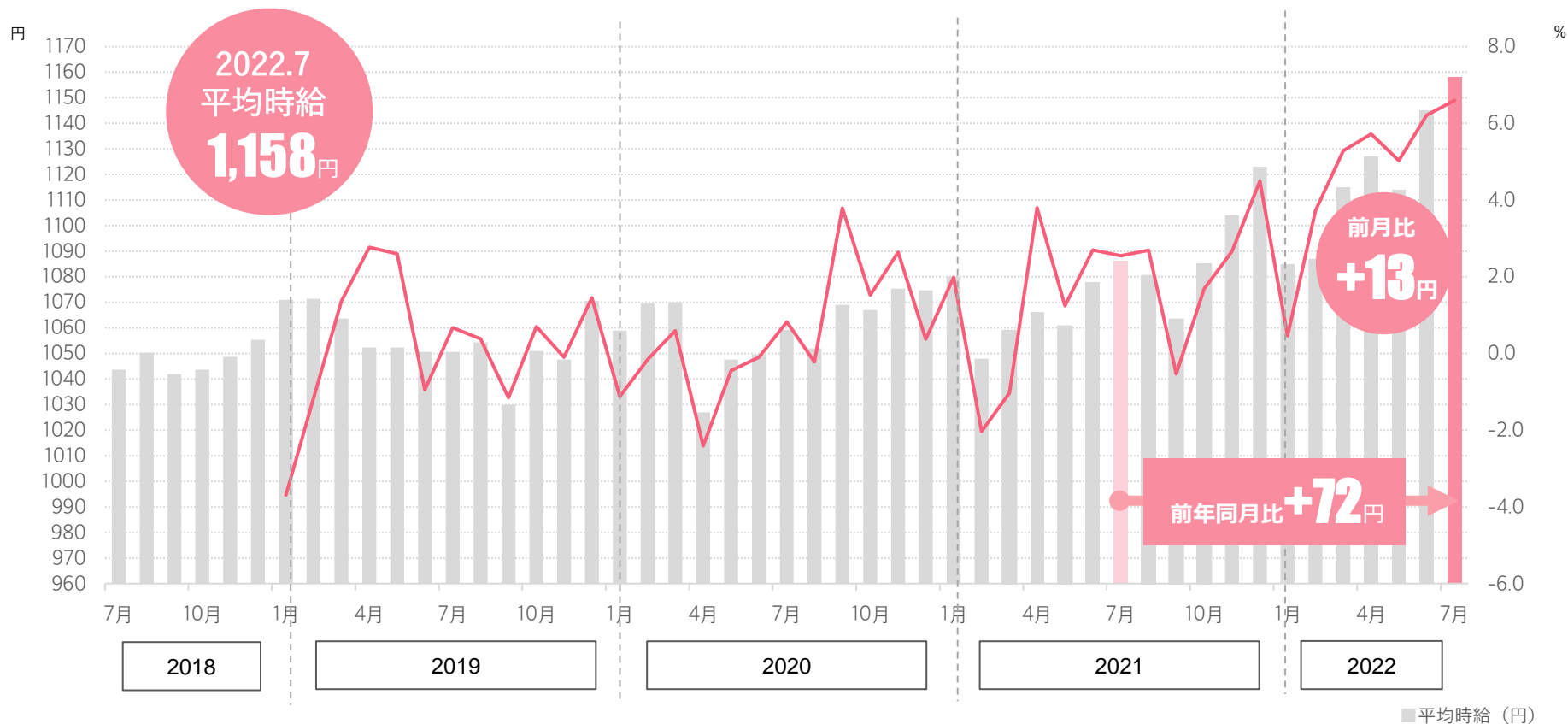
	当月	構成比	前月比	前月	前年同月比	前年同月
■ 職業計	86,105 件	100.0%	48.3%	58,062 件	83.1%	47,014 件
■ イベントスタッフ	2,751 件	3.2%	46.4%	1,879 件	58.5%	1,736 件
■ 飲食・フード	446 件	0.5%	9.0%	409 件	49.2%	299 件
■ 倉庫内・軽作業	23,200 件	26.9%	50.0%	15,468 件	89.4%	12,249 件
■ 組立工	1,616 件	1.9%	67.3%	966 件	42.0%	1,138 件
■ コンビニスタッフ	38,400 件	44.6%	29.3%	29,702 件	103.5%	18,871 件
■ キャンペーン・PR系	795 件	0.9%	10.4%	720 件	-16.9%	957 件
■ 運送・ドライバー系	14,606 件	17.0%	161.9%	5,578 件	78.1%	8,203 件

出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」2021年7月～2022年7月データを加工

スポットワーク賃金推移

スポットワーク平均賃金の推移

- 2022年7月度のスポットワーク平均時給（首都圏・関西圏・東海圏の三大都市圏）は1,158円（前月から+13円、前年から+72円）。
- 平均賃金は2018年1月の調査開始以来、過去最高を更新。

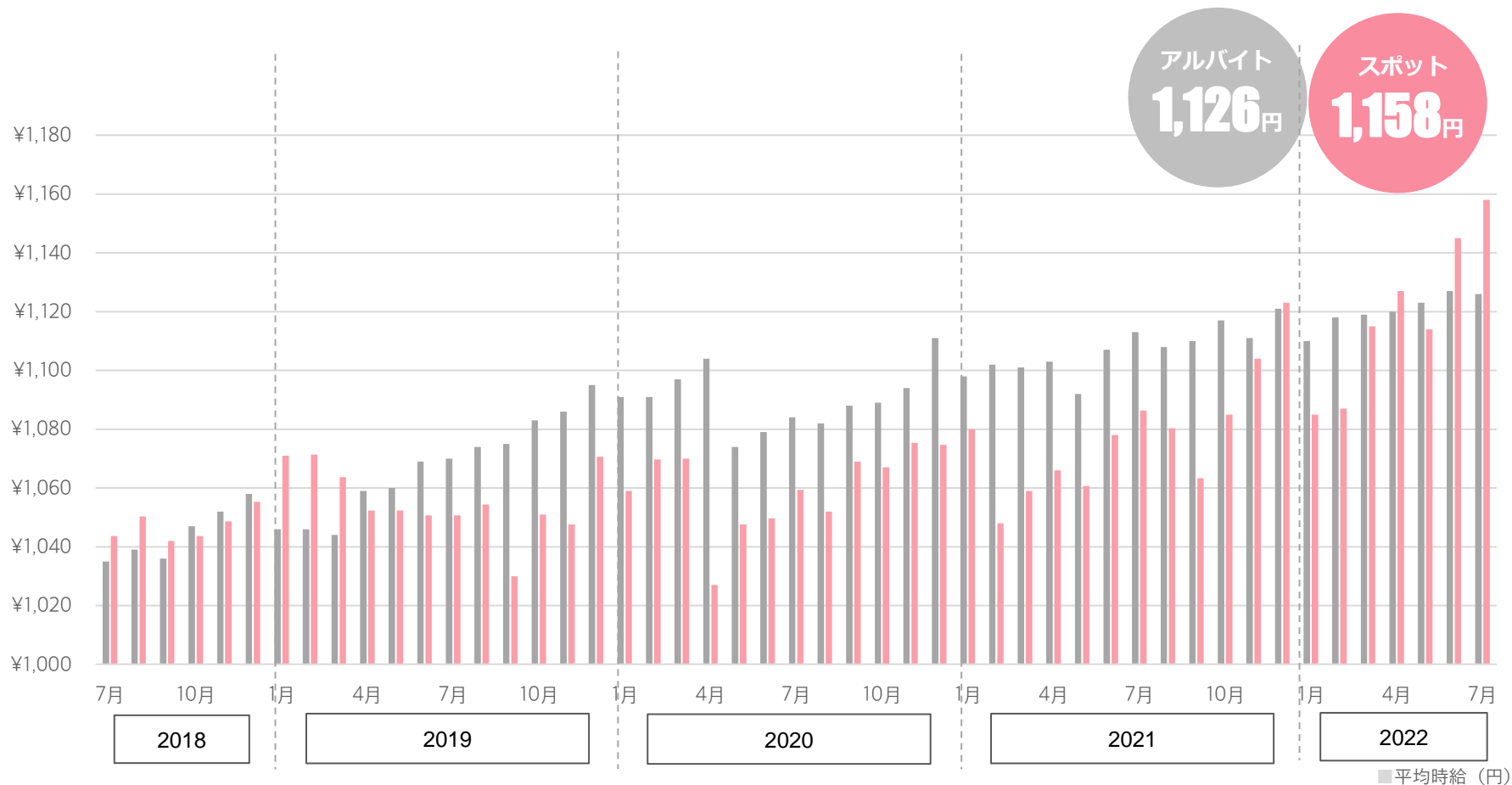


	平均時給	前月比	前年同月比	前月	前年同月
三大都市圏	1158円	13円	72円	1145円	1086円
首都圏	1153円	-7円	31円	1160円	1122円
東海	1112円	34円	27円	1078円	1085円
関西	1115円	17円	63円	1098円	1052円

出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」三大都市圏平均時給2018年7月～2022年7月データを加工

スポットワーク・アルバイト賃金の格差比較

- 通常のアルバイト平均時給（※リクルート発表「アルバイト・パート募集時平均時給調査」）と比較して、スポット時給は32円高い。
- スポット時給がアルバイト時給を30円以上上回るのは、2018年1月の調査開始以来初めてのこと。



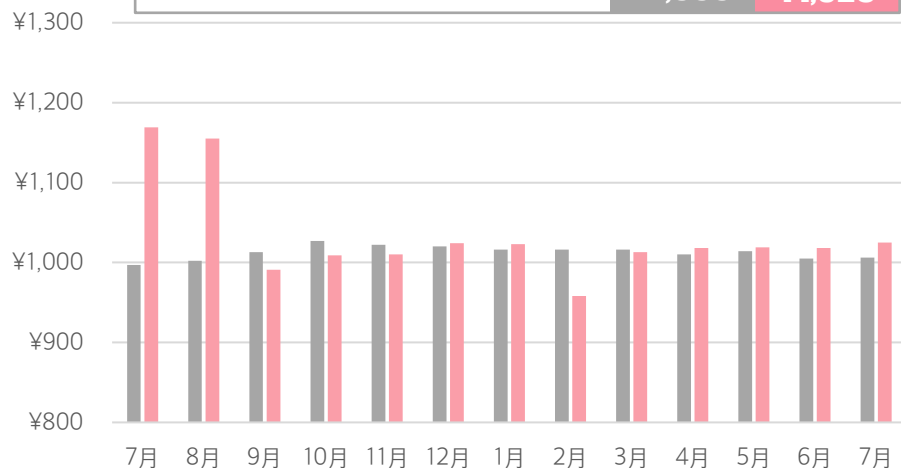
	平均時給	前月比	前年同月比	前月	前年同月
スポット	1158円	13円	72円	1145円	1086円
アルバイト	1126円	-1円	13円	1127円	1113円

出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」三大都市圏平均時給2018年7月～2022年7月データ
リクルート「アルバイト・パート募集時平均時給調査」2018年7月～2022年7月を加工

参考) スポットワーク・アルバイト賃金主要職種比較

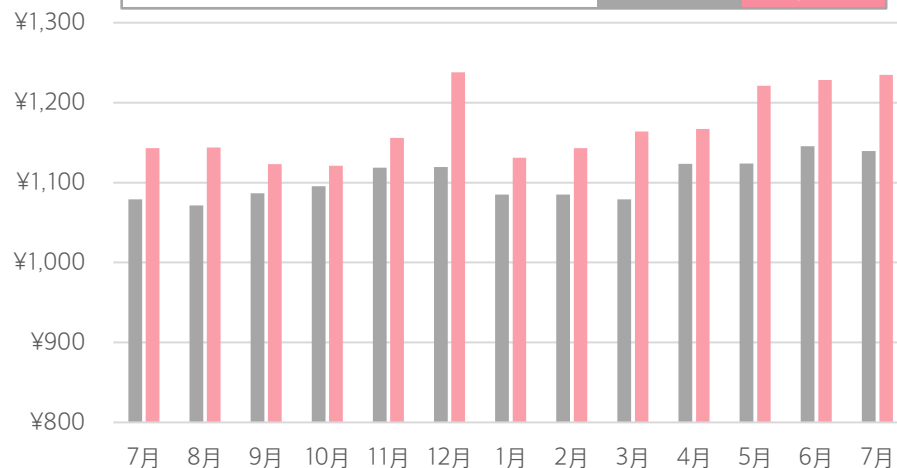
コンビニ

アルバイト ¥1,006
スポット ¥1,025



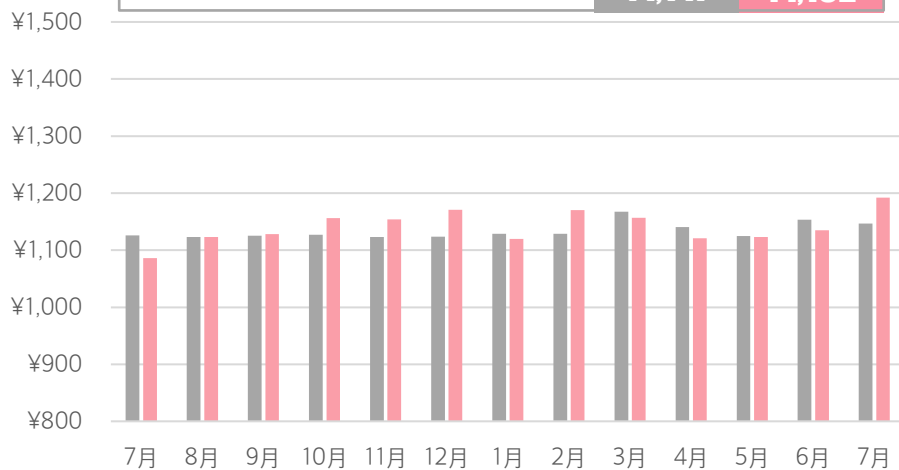
倉庫内・軽作業

アルバイト ¥1,140
スポット ¥1,235



運送・ドライバー

アルバイト ¥1,147
スポット ¥1,192



出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」三大都市圏平均時給2018年7月～2022年7月データ
リクルート「アルバイト・パート募集時平均時給調査」2018年7月～2022年7月を加工
注) アルバイト賃金の「コンビニ」はリクルート「アルバイト・パート募集時平均時給調査」における「コンビニスタッフ」を適用
「運送・ドライバー」は「ドライバー・配送・デリバリー」「ドライバー(中型・大型・バス・タクシー)」の平均値を適用
「倉庫内・軽作業」は「物流作業」「発送・仕分け・梱包」の平均値を適用